

評価コメント

- ・患者指導キットの作成は意義のあることである。広く採用されることを望む。
- ・小、中、高校と一貫した指導が必要と思われるが、小・中学校で指導が適切に行われてきた生徒とそうでない生徒によって、高校での指導はまた異なったものになるのではないかと思われる。今後は更にその様な点も考慮して調査を進めていただきたい。
- ・公立学校での調査研究が難しい中、よい関係を保ち継続していることを高く評価する。調査法、対象者の選定、介入方法とその評価につき、一連の方策を小、中、高校の特性を考慮して示したことは評価される。専門医の関与が希薄な地域でも展開できる方策についても考察する必要がある。
- ・小中高別に健康相談事業の雛形作成とその評価方法について、一定の成果が得られたことを評価する。
- ・疫学調査のための問診票と管理の問診票との有用性比較からの検討は意義がある。
- ・小学校ではICS、中学校では尿中コチニンによる喫煙調査介入、高校では養護教育などの多層、多面的検討は有用な情報を提供した。
- ・学童を対象に健康相談事業としていろいろな介入を行っているが、そのような相談事業が小児の喘息の改善にどの程度の効果をもたらしたかを検証することが大切である。
- ・優れたフィールドを構築し継続している。また、小、中、高校にあったプログラムを行っている。
- ・禁煙指導が行われているが、禁煙外来への紹介等、積極的介入を行うべきと考える。
- ・各々のプログラムから得られた事項を参考にパンフレットを作成し、全国展開を。